

JS-15056

私設総合サービス網（中継カウンタ網付加機能）

- PBX間信号プロトコル仕様 -

Private Integrated Services Network  
(Transit Counter Additional Network Feature)  
- Specifications for inter-PBX signalling protocol -

第1版

1999年11月25日制定

社団法人

情報通信技術委員会

THE TELECOMMUNICATION TECHNOLOGY COMMITTEE

本書は、（社）情報通信技術委員会が著作権を保有しています。

内容の一部又は全部を（社）情報通信技術委員会の許諾を得ることなく複製、転載、改変、転用及びネットワーク上での送信、配布を行うことを禁止します。

< 参考 >

1. 国際勧告等との関連

本標準はISO/IEC JTC1において制定された私設総合サービス網における中継カウンタ付加サービスに関連する標準ISO/IEC 15056第1版(1997)に準拠している。

2. 上記国際勧告等に対する追加項目等

本標準では、国際標準において編集上の誤りと考えられる点については修正し、本文中にその旨を「注記」として明記するとともに原文にてCCITTと表現されている部分をITU-Tに変更している。

また、上記国際標準に対し下記の項目を削除している。削除部分は理解を助けるために記述を残し、欄外の“#”で削除を表現している。

6.5.15節 コールインターセプション(ANF-CINT)との相互作用

本項目を削除した理由は、該当する付加サービスがTTC標準化されていないことによるものであり、当該サービスの標準化時に本標準も見直される。

3. 改版の履歴

版数	発行日	改版内容
第1版	1999年11月25日	制定

4. 工業所有権

本標準に関わる「工業所有権等の実施の権利に係る確認書」の提出状況は、TTCホームページでご覧になれます。

5. その他

(1) 参照している勧告、標準等

ITU-T勧告:

I.112, I.130, I.210

ISO/IEC標準:

ISO/IEC 11574, ISO/IEC 11579-1, ISO/IEC 15054,  
ISO/IEC 15055

TTC標準

JS-11572, JS-11582, JS-13869, JS-13870, JS-13873,  
JS-13874

(2) 他の国内標準との関連

なし

## 目 次

前書	1
序文	1
1 規定範囲	2
2 適合	2
3 参考文献	2
4 定義	3
4.1 外部定義	3
5 略語一覧	4
6 ANF - TC提供のための信号プロトコル	5
6.1 ANF - TCの概要	5
6.2 SS - TCの運用上の要求条件	5
6.3 ANF - TCのコーディングの要求条件	6
6.4 ANF - TC信号手順	6
6.5 SS - TCと他の付加サービスおよびANFとの間の相互作用	8
付属資料A(規定)	11
A.1 はじめに	11
A.2 PICS様式作成の指針	11
A.3 PICS様式	13

## 前書

ISO（国際標準化機構）とIEC（国際電気標準化会議）は世界的標準化のための専門的なシステムを組織化したものである。ISOまたはIECのメンバになっている各国団体は、特定の技術活動分野を扱う個別の組織により設立された技術委員会を通じて国際標準の発展に参加している。ISOとIECの技術委員会は共通の関心分野で協力している。他の国際機関、政府、そして非政府もまたISOとIECと連絡をとりあって、この作業に加わっている。

技術分野においてISOとIECは合同技術委員会、つまりISO/IEC JTC1を設立した。合同技術委員会により採用された国際標準案は、投票のため各国団体に照会される。国際標準として発行するには投票した各国団体の少なくとも75%の賛成が必要である。

国際標準ISO/IEC 15056はECMA（ECMA - 225として）に準備され、特別な「fast-track 手続き」の下に、ISOとIECの各国団体の承認を経て情報技術を扱う合同技術委員会ISO/IEC JTC1により採用された。

付属資料Aは本標準の欠くことのできない部分である。

## 序文

本標準は私設総合サービス網（PISN）に適用するサービスと信号プロトコルを定義する標準シリーズの一つである。このシリーズはITU-Tで開発したISDNの概念を使用し、ISO/IECにより定義されている開放形システム間相互接続に準拠している。

本標準は中継カウンタ網付加機能をサポートするためのQ参照点で使用する信号プロトコルを定義している。

国際標準は、ECMAメンバの実践的経験と、ISO/IEC JTC1、ETSIそして他の国際及び国内標準化団体の活発かつ継続的な作業への参加の結果に基づいている。国際標準は実用的で広範囲な合意の結果である。

## 1 規定範囲

本標準は、私設総合サービス網 ( P I S N ) 内で相互に接続される私設総合サービス網交換機 ( P I N X ) 間の、Q参照点における、中継カウンタ網付加機能 ( A N F - T C ) をサポートする信号プロトコルを定義している。

A N F - T C は、例えば網を無限ループから保護する目的等により、呼設定要求をルーチングする中継 P I N X の数を制限する機能である。

Q参照点は、I S O / I E C 11579-1で定義されている。

サービス仕様は I T U - T 勧告 I . 130 で定義される手順にしたがって、3つのステージで構成されている。本標準はQ参照点のステージ3仕様を含み、I S O / I E C 15055のステージ1、ステージ2仕様で定義された要求条件を満足する。

A N F - T C の信号プロトコルは、J S - 11572<sup>注記</sup>で定義される基本回線交換呼制御の信号プロトコルと、J S - 11582で定義された呼と独立した信号コネクションと関連し動作する。

本標準はまた、A N F - T C と他の付加サービス、A N F 間のQ参照点における相互作用をサポートするための追加の信号プロトコル要求条件を定義する。

注 - Q参照点における信号プロトコルに対して影響を与えない付加的相互作用についてはステージ1仕様を参照のこと。

本標準は P I S N を形成するために相互接続された P I N X に対して適用される。

## 2 適合

本標準への適合のため、P I N X は、付属資料Aのプロトコル実装適合性宣言 ( P I C S ) 様式で確認する要求条件を満足する必要がある。

本標準への適合性は、Q参照点において信号プロトコルがステージ3仕様に従ってサポートされる、A N F - T C と他の付加サービス、A N F 間のプロトコル相互作用を規定する章への適合を含む。

## 3 参考文献

以下に示す標準は、参照により本標準の一部を構成する部分を含んでいる。発行時点では下記の版が有効であった。すべての標準は改訂されることがあり、本標準の関係者は以下の標準群の最新版が適用できないかを調査するように努めるべきである。I E C と I S O のメンバは常に有効な標準の登録を維持している。

---

注記 : 本標準の全ての範囲において用語 “ J S - 11572 ” は同等機能を有する標準 “ J T - Q 931 - a ” と読み替えて適用することが可能である。

J S - 1 1 5 7 2	: 1997,	私設総合サービス網（回線交換ベアラサービス） - P B X間プロトコルレイヤ3仕様
I S O / I E C 1 1 5 7 4	: 1994,	電気通信とシステム間の情報交換 - 私設総合サービス網 - 回線交換 64kbit/s ベアラサービス - サービス記述、機能モデルと情報フロー
I S O / I E C 1 1 5 7 9 - 1	: 1994,	電気通信とシステム間の情報交換 - 私設総合サービス網 - 参照構成 - Part1 : P I S N交換機 ( P I N X )
J S - 1 1 5 8 2	: 1995,	私設総合サービス網（付加サービスのための汎用機能手順） - P B X間信号プロトコル
J S - 1 3 8 6 9	: 1997,	私設総合サービス網（通信中転送付加サービス） - P B X間信号プロトコル
J S - 1 3 8 7 0	: 1997,	私設総合サービス網（呼完了付加サービス） - P B X間信号プロトコル
J S - 1 3 8 7 3	: 1997,	私設総合サービス網（着信転送付加サービス） - P B X間信号プロトコル
J S - 1 3 8 7 4	: 1998,	私設総合サービス網（パス張替網付加機能） - P B X間信号プロトコル
I S O / I E C 1 5 0 5 4	: 1997,	電気通信とシステム間の情報交換 - 私設総合サービス網 - P B X間信号プロトコル - コールインタセプション網付加機能
I S O / I E C 1 5 0 5 5	: 1997,	電気通信とシステム間の情報交換 - 私設総合サービス網 - 仕様、機能モデルと情報フロー - 中継カウンタ網付加機能
I T U - T 勧告 I . 1 1 2	: 1988,	I S D N用語「ブルーブック」
I T U - T 勧告 I . 1 3 0	: 1988,	I S D Nより提供される電気通信サービスの記号化のための方法「ブルーブック」
I T U - T 勧告 I . 2 1 0	: 1988,	I S D Nより提供される電気通信サービスの原則とその記述方法「ブルーブック」

#### 4 定義

本標準は以下に示す定義を適用する。

##### 4.1 外部定義

本標準は、他のドキュメントで定義している以下の用語を使用する。

基本サービス	( I T U - T 勧告 . I . 2 1 0 )
呼、基本呼	( J S - 1 1 5 8 2 )
呼と独立した信号コネクション	( J S - 1 1 5 8 2 )
C C呼	( J S - 1 3 8 7 0 )
協力P I N X	( J S - 1 3 8 7 4 )
着信転送先P I N X	( J S - 1 3 8 7 3 )
着信転送先ユーザ	( J S - 1 3 8 7 3 )
入ゲートウェイP I N X	( J S - 1 1 5 7 2 )
入側	( J S - 1 1 5 7 2 )

P I N X間リンク	( J S - 1 1 5 7 2 )
発P I N X	( J S - 1 1 5 7 2 )
出ゲートウェイP I N X	( J S - 1 1 5 7 2 )
出側	( J S - 1 1 5 7 2 )
パス保持	( J S - 1 3 8 7 0 )
前位P I N X	( J S - 1 1 5 7 2 )
一次P I N X	( J S - 1 1 5 7 2 )
私設総合サービス網 ( P I S N )	( I S O / I E C 1 1 5 7 9 - 1 )
私設総合サービス網交換機 ( P I N X )	( I S O / I E C 1 1 5 7 9 - 1 )
要求P I N X	( J S - 1 3 8 7 4 )
着信転送P I N X	( J S - 1 3 8 7 3 )
二次P I N X	( J S - 1 3 8 6 9 )
信号 ( signalling )	( I T U - T 勧告 . I . 1 1 2 )
後位P I N X	( J S - 1 1 5 7 2 )
付加サービス	( I T U - T 勧告 . I . 2 1 0 )
着P I N X	( J S - 1 1 5 7 2 )
中継P I N X	( J S - 1 1 5 7 2 )

## 5 略語一覧

A N F	Additional Network Feature 網付加機能
A N F - P R	Path Replacement additional network feature パス張替網付加機能
A N F - T C	Transit Counter additional network feature 中継カウンタ網付加機能
I S D N	Integrated Services Digital Network サービス総合デジタル網
P I C S	Protocol Implementation Conformance Statement プロトコル実装適合性宣言
P I N X	Private Integrated Services Network Exchange 私設総合サービス網交換機
P I S N	Private Integrated Services Network 私設総合サービス網
S S - C C	Call Completion Supplementary Service 呼完了付加サービス
S S - C C B S	Completion of Calls to Busy Subscribers Supplementary Service ビジー時再呼出付加サービス
S S - C C N R	Completion of Calls on No Reply Supplementary Service 無応答時再呼出付加サービス



SS - CD	Call Deflection Supplementary Service 呼毎着信転送付加サービス
SS - CFU	Call Forwarding Unconditional Supplementary Service 無条件着信転送付加サービス
SS - CFB	Call Forwarding Busy Supplementary Service ビジー時着信転送付加サービス
SS - CFNR	Call Forwarding No Reply Supplementary Service 無応答時着信転送付加サービス
SS - CT	Call Transfer Supplementary Service 通信中転送付加サービス
SS - DIV	Diversion Supplementary Service 着信転送付加サービス

## 6 ANF - TC 提供のための信号プロトコル

### 6.1 ANF - TC の概要

ANF-TC は、呼設定要求を転送する中継 PINX の数を制限するときに起動される。

ANF-TC は、基本的な呼設定要求や呼と独立した信号コネクションのための呼設定要求のどちらにも使われる。

ANF-TC の機能はネットワークオプションである。

- ANF-TC の起動タイミング
  - 呼が中継される PINX 数
  - 機能を活性化あるいは非活性化する方法
- これらは、ネットワーク依存であり、この国際標準の適応範囲外である。

### 6.2 SS - TC の運用上の要求条件

#### 6.2.1 発 PINX の要求条件

JS-11572 に規定された PINX 間リンクの出側の呼設定および解放手順が適用される。

もし PINX がコネクションオリエンテッド形 APDU トランスポートをサポートするならば、JS-11582 に規定された付加サービスに関する呼と独立した制御手順の発 PINX に関する手順が適用される。

#### 6.2.2 着 PINX の要求条件

JS-11572 に規定された PINX 間リンクの入側の呼設定および解放手順が適用される。

もし PINX がコネクションオリエンテッド形 APDU トランスポートをサポートするならば、JS-11582 に規定された付加サービスに関する呼と独立した制御手順の着 PINX に関する手順が適用される。

#### 6.2.3 中継 PINX の要求条件

中継 PINX では JS-11572 に規定された基本呼の呼設定および解放手順が適用される。

もし PINX がコネクションオリエンテッド形 APDU トランスポートをサポートするならば、JS-11582 に

規定された付加サービスに関する呼と独立した制御手順の中継 PINX に関する手順が適用される。

### 6.3 ANF - TC のコーディングの要求条件

#### 6.3.1 中継カウンタ情報要素

ANF-TC は、JS-11572 の 14.5.1 節に定義されている可変長情報要素の一般的なフォーマットと符号化の規則に従い、コードセット 4 (ISO コードセット) の独立した情報要素 (中継カウンタ) として符号化されている。

中継カウンタ情報要素は、図 1 / JS - 1 5 0 5 6 と表 1 / JS - 1 5 0 5 6 に示されるフォーマットの可変長カテゴリ 1 (JS-11572 10.4 節.11.2 節参照) 情報要素である。

8	7	6	5	4	3	2	1	
中継カウンタ								
0	0	1	1	0	0	0	1	オクテット 1
情報要素識別子								
中継カウンタ内容長								オクテット 2
1	0	0	中継カウンタ					オクテット 3
拡張	予約		(バイナリ値)					

図 1/JS-15056 中継カウンタ情報要素

表 1/JS-15056 中継カウンタ情報要素

中継カウンタ (オクテット 3)  
 バイナリ値 (範囲 0-31) は、呼設定要求が既に通り返けた中継 PINX の数を表す。  
 呼設定要求が通過してもよい中継 PINX の最大値は、個々のネットワークに依存である。

#### 6.3.2 メッセージ

中継カウンタ情報要素は、「呼設定」メッセージに含まれる。

シフト情報要素 (JS-11572 14.5.3 節、14.5.4 節参照) の一つが、「呼設定」メッセージ内の中継カウンタ情報要素の前に配置される。

### 6.4 ANF - TC 信号手順

中継カウンタ機能のための信号プロトコルは、基本回線交換呼制御 (JS-11572 14.5.3 節、14.5.4 節参照) および呼と独立した (コネクションオリエンテッド形) 信号コネクション (JS-11582 に規定) のための信号プロトコルに関連して動作する。

注 - 以下に示される動作は、両方の場合に適用できる。

参照は JS-11572 と JS-11582 に規定されている手順に対し作られているため、参照の解釈において関係する呼が基本呼と呼と独立した信号コネクションのどちらに当てはまるか適切に考える必要がある。

#### 6.4.1 発PINXの動作

発PINXはPINX間リンクを越えて送られる「呼設定」メッセージの中に中継カウンタ情報要素を含めてよい。中継カウンタフィールドの値は0にセットされる。

#### 6.4.2 着PINXの動作

着PINXは、中継カウンタ情報要素がどの「呼設定」メッセージに含まれていようとも、それを無視する。

#### 6.4.3 中継PINXの動作

##### 6.4.3.1 正常手順

前位PINXから「呼設定」メッセージを受信した際には、呼の要求はJS-11572とJS-11582に規定される手順に従い処理される。

もし受信した「呼設定」メッセージが中継カウンタフィールドに許容範囲内(ネットワークに依存)の値の中継カウンタ情報要素を含むなら、その情報要素は後位PINXに送られる「呼設定」メッセージに引き継がれる。出側中継カウンタ情報要素内の中継カウンタ値は受信した値に1を足した値がセットされる。

もし受信した「呼設定」メッセージが中継カウンタ情報要素を含まないなら、中継PINXは後位PINXに送信する「呼設定」メッセージに中継カウンタ情報要素を含めてよい。この情報要素内の中継カウンタフィールドの値は、1以上の値がセットされる。

##### 6.4.3.2 例外手順

もし前位PINXから受信した「呼設定」メッセージが、中継カウンタフィールドに呼を中継してよい中継PINX数の許容値(ネットワーク依存)より大きいあるいは同じ値の中継カウンタ情報要素を含み、そのPINXが着PINXあるいは出ゲートウェイPINXになることができないならば、その呼は拒絶される。その許容値は31を越えてはならない。

#### 6.4.4 入ゲートウェイPINXの動作

PISNに入ってくる呼を中継するとき、入ゲートウェイPINXはPINX間リンクで送信する「呼設定」メッセージ内に中継カウンタ情報要素を含めてよい。中継カウンタフィールドの値は、初期値がセットされる。この初期値は、呼の履歴情報がない限り、0である。

#### 6.4.5 出ゲートウェイPINXの動作

出ゲートウェイPINXは、同様の機能をサポートする他のネットワークとの相互接続のために、「呼設定」メッセージ内に受信した中継カウンタ情報要素を利用してよい。それ以外は、出ゲートウェイPINXは「呼設定」メッセージ内に受信した中継カウンタ情報要素を無視する。

## 6.5 SS-TC と他の付加サービスおよび ANF との間の相互作用

この章は、この標準の発行時にステージ 3 規格が既に発行済みの他の付加サービスおよび ANF との相互作用を定めている。本標準の発行後にステージ 3 規格の発行される付加サービスと ANF との相互作用については、その標準を参照のこと。

注 1-Q 参照点の信号プロトコル上で影響のない他の相互作用は、その関連したステージ 1 の仕様書に記述されている。

注 2- 同じメッセージにて中継カウンタ情報要素と他の付加サービスまたは ANF の APDU が同時に送られる場合、おのおのがそれぞれのステージ 3 規格の要求を満たしていれば、このこと自身は、相互作用を構成しない。

この章に述べられているそれぞれの相互作用によると、中継 PINX は 6.4.3 節に述べられているように動作する。

### 6.5.1 発信者名通知 (SS-CNIP) との相互作用

相互作用無し。

### 6.5.2 接続先名通知 (SS-CONP) との相互作用

相互作用無し。

### 6.5.3 ビジー時再呼出 (SS-CCBS) との相互作用

CC 呼 (パス確保の有無によらず、参照 JS-13870) を開始する発 PINX は、6.4.1 節に述べられているように「呼設定」メッセージ内に中継カウンタ情報要素を含めてよい。

### 6.5.4 無応答時再呼出 (SS-CCNR) との相互作用

CC 呼 (パス確保の有無によらず、参照 JS-13870) を開始する発 PINX は、6.4.1 節に述べられているように「呼設定」メッセージ内に中継カウンタ情報要素を含めてよい。

### 6.5.5 通信中転送 (SS-CT) との相互作用

リルーチング形通信中転送 (参照 JS-13869) を行うとき、一次 PINX は、二次 PINX へ新しいコネクションを作るために送る「呼設定」メッセージ内に中継カウンタ情報要素を含めてよい。中継カウンタ情報要素の中継カウンタフィールドは 0 にセットされる。

二次 PINX は、受信した「呼設定」メッセージ内に中継カウンタ情報要素が含まれているなら、それを無視する。

### 6.5.6 無条件着信転送 (SS-CFU) との相互作用

着信転送 PINX (参照 JS-13869) は、着信転送先ユーザーへの新しい呼を作るために送る「呼設定」メッセージ内に中継カウンタ情報要素を含めてよい。中継カウンタ情報要素の中継カウンタフィールドは 0 にセットされる。

着信転送先 PINX は、受信した「呼設定」メッセージ内に中継カウンタ情報要素が含まれているなら、そ

れを無視する。

#### 6.5.7 ビジー時着信転送 (SS - CFB) との相互作用

ビジー時着信転送との相互作用は、6.5.6 節に述べられている。

#### 6.5.8 無応答時着信転送 (SS - CFNR) との相互作用

無応答時着信転送との相互作用は、6.5.6 節に述べられている。

#### 6.5.9 呼毎着信転送 (SS - CD) との相互作用

無条件呼毎着信転送との相互作用は、6.5.6 節に述べられている。

呼出中呼毎着信転送との相互作用は、6.5.8 節に述べられている。

#### 6.5.10 パス張替 (ANF - PR) との相互作用

協力 PINX (参照 JS-13874) は、要求 PINX への新しい接続を作るために送られる「呼設定」メッセージ内に中継カウンタ情報要素を含めてよい。中継カウンタ情報要素の中継カウンタフィールドは 0 にセットされる。

要求 PINX は、もし中継カウンタ情報要素が受信した「呼設定」メッセージ内に含まれているなら、それを無視する。

新しい接続に含まれる中継 PINX は、6.4.3 節以降に記述されている手順に従い動作する。

要求 PINX 方向の後位 PINX に関する限り、古い接続を保持することはできず、保持接続に含まれる中継 PINX は、要求 PINX への新しい接続を作るために送られる「呼設定」メッセージ内に中継カウンタ情報要素を含めてよい。この情報要素内の中継カウンタフィールドの値は、1 以上の値がセットされる。

注 - 張替接続に含まれる中継 PINX にとって相互作用はない。

#### 6.5.11 呼提供 (SS - CO) との相互作用

相互作用無し。

#### 6.5.12 着信拒否 (SS - DND) との相互作用

相互作用無し。

#### 6.5.13 着信拒否オーバーライド (SS - DNDO) との相互作用

相互作用無し。

#### 6.5.14 コールイントルージョン (SS - CI) との相互作用

相互作用無し。

#### 6.5.15 コールインターセプション (ANF - CINT) との相互作用

#

インターセプション PINX (参照 ISO/IEC 15054) は、新しいインターセプトユーザーへの呼の設定

#

のための「呼設定」メッセージに中継カウンタ情報要素を含めてよい。

#

6.5.16 リコール (SS - RE) との相互作用

相互作用無し。

6.5.17 課金通知 (SS - AOC) との相互作用

相互作用無し。

## 付属資料A（規定）

### プロトコル実装適合性宣言（P I C S）（J S - 1 5 0 5 6）

#### A. 1 はじめに

標準 J S - 1 5 0 5 0 に適合したプロトコルの提供者は後述するプロトコル実装適合性宣言（P I C S）様式を完成しなければならない。作成するのはその実装したプロトコルに該当する P I C S である。

P I C S は実装したプロトコルの能力、オプションについて作成された一覧表である。

P I C S には多くの利用法があり、それには以下のものが含まれる。

- ・プロトコルを実装する者：見落としによって、標準への適合に失敗するリスクを減らすためのチェックリスト。
- ・実装の提供側 / 受け手側：  
（又は潜在的な受け手）実装におけるその能力の詳細な表示を行う時に用いる。  
標準 P I C S 様式で示された理解を得るための共通の基準に対する比較として記述される。
- ・実装のユーザ：  
（又は潜在的なユーザ）他に実装されたものと、相互接続性の初期チェックを行う場合の基準となる。相互接続性を保証することはできないものの、P I C S の不整合によって相互接続が失敗することをおよぼす程度を予測することができる。
- ・プロトコル試験者：実装適合性の要求内容を審査するために適切な試験を選択するための基準となる。

#### A. 2 P I C S 様式作成の指針

##### A. 2. 1 P I C S 様式の全体構成

P I C S 様式は、定形の質問票であり、個々の項目がグルーピングされて分けられている。それぞれの項目は項目番号、項目名（答えるべき質問）と本標準の本文を参照するための章番号により識別される。

“位置づけ”欄は、その項目が適用対象か、もしそうであれば必須かオプションかを示す。以下の記号が使用される：

- m 必須（プロトコルの適合性のためにその能力が要求される）
- o オプション（プロトコルの適合性のためにその能力は要求されない。しかし、その能力が実装されている時には、プロトコルの仕様に適合しなければならない）
- o n オプションであるが同じ n の番号で示されるグループの中で少なくとも一つをサポートしなければならない。
- x 禁止
- c. cond 条件指定。条件<cond>で示される項目あるいは複数の項目のサポート状況に依存する。

<item>: m 単純条件要求。 item で示される項目番号がサポートされている場合は必須。  
そうでなければ適用対象外。

<item>: o 単純条件要求。 item で示される項目番号がサポートされている場合はオプション。  
そうでなければ適用対象外。

質問票への回答は“サポート”欄に示す選択肢（yes または no）または“N / A（適用対象外）”欄のいずれかをマークすることで行われる。

#### A. 2. 2 付加情報

付加情報の項目を用いて、提供者はP I C Sの解釈を助けるために、追加の情報を与えることができる。これは大量の情報を提供することを意図したり、またそれを期待するものではなく、またP I C Sはこのような情報がないと完成しないということの意味するものでもない。多様な条件や環境の中で利用することが可能な実装方法の一つについて、概要を記述するために用いることが(付加情報の)利用例にあげられる。

付加情報項目への参照は質問事項のどの回答の後でも可能であり、また、例外情報項目にも含まれることがある。

#### A. 2. 3 例外情報

提供者が、必須や禁止に位置づけられている項目に対して、(いくつかの条件が適用された後)要求されているものとは異なる方法で回答したい場合が生じるかもしれない。

"サポート"欄に予め印刷された答が用意されていない場合は、その代わりに提供者は例外情報項目への参照のために"サポート"欄に x.<i> を記入し、例外項目に対して適当な記述をすることが要求される。

このように例外項目が要求されるものの実装は、J S - 1 5 0 5 0 には適合しない。上の記述のような場合が生じる一つの原因として、J S - 1 5 0 5 0 の欠陥により要求項目が実装に合わず、訂正の要求がなされていることもありうる。



### A. 3 P I C S 様式

#### A. 3.1 実装の識別

提供者	
P I C S に関する問合せ先	
実装名と実装のバージョン	
実装を完全に識別するために必要な他の情報	

最初の3項目はすべての実装に際して要求される。他の情報は、実装を完全に識別する要求を満たす上で、必要に応じて記入すればよい。

名前とバージョンは提供者の用語と適当に一致するように解釈されるべきである。

(例：型、シリーズ、モデル)

#### A. 3.2 プロトコルの要約

プロトコルのバージョン	1.0
実装に関する補遺 (もし適用可能ならば)	
実装に関する修正	
例外項目の指定 (A.2.3 参照)	No[] Yes[] (Yes の場合、その実装は本標準に適合しないことを意味する)
記入日	

### A. 3.3 概要

項目	質問 / 特徴	参照	位置づけ	N/A	サポート
A1	基本回線交換呼制御 (JS-11572) と関連する ANF-TC の発 PINX としての動作	6.2.1,6.4.1	o.1		Yes[ ],No[ ]
A2	呼と独立した信号コネクション (JS-11582) と関連する ANF-TC の発 PINX としての動作	6.2.1,6.4.1	o.1		Yes[ ],No[ ]
A3	基本回線交換呼制御 (JS-11572) と関連する ANF-TC の着 PINX としての動作	6.2.2,6.4.2	o.1		Yes[ ],No[ ]
A4	呼と独立した信号コネクション (JS-11582) と関連する ANF-TC の着 PINX としての動作	6.2.2,6.4.2	o.1		Yes[ ],No[ ]
A5	基本回線交換呼制御 (JS-11572) と関連する ANF-TC の中継 PINX としての動作	6.2.3,6.4.3	o.1		Yes[ ],No[ ]
A6	呼と独立した信号コネクション (JS-11582) と関連する ANF-TC の中継 PINX としての動作	6.2.3,6.4.3	o.1		Yes[ ],No[ ]
A7	基本回線交換呼制御 (JS-11572) と関連する ANF-TC の入ゲートウェイ PINX と しての動作	6.4.4	o.1		Yes[ ],No[ ]
A8	呼と独立した信号コネクション (JS-11582) と関連する ANF-TC の入ゲートウェイ PINX と しての動作	6.4.4	o.1		Yes[ ],No[ ]
A9	基本回線交換呼制御 (JS-11572) と関連する ANF-TC の出ゲートウェイ PINX と しての動作	6.4.5	o.1		Yes[ ],No[ ]
A10	呼と独立した信号コネクション (JS-11582) と関連する ANF-TC の出ゲートウェイ PINX と しての動作	6.4.5	o.1		Yes[ ],No[ ]

### A. 3.4 SS - CC との相互作用

項目	質問 / 特徴	参照	位置づけ	N/A	サポート
B1	SS - CCBS のサポート		o		Yes[ ],No[ ]
B2	SS - CCNR のサポート		o		Yes[ ],No[ ]
B3	SS - CCBS との相互作用	6.5.3	c.1	[ ]	m:Yes[ ]
B4	SS - CCNR との相互作用	6.5.4	c.2	[ ]	m:Yes[ ]

c.1 B1 かつ A1 が選択された場合はオプション、それ以外の場合は N/A となる

c.2 B2 かつ A1 が選択された場合はオプション、それ以外の場合は N/A となる

A. 3. 5 SS - CTとの相互作用

項目	質問 / 特徴	参照	位置づけ	N/A	サポート
C1	リルーチング形SS - CTのサポート		O		Yes[ ],No[ ]
C2	SS - CTとの相互作用	6.5.5	C1:m	[ ]	m:Yes[ ]

A. 3. 6 SS - DIVとの相互作用

項目	質問 / 特徴	参照	位置づけ	N/A	サポート
D1	SS - CFUのサポート		o		Yes[ ] No[ ]
D2	SS - CFBのサポート		o		Yes[ ] No[ ]
D3	SS - CFNRのサポート		o		Yes[ ] No[ ]
D4	SS - CDのサポート		o		Yes[ ] No[ ]
D5	SS - CFUとの相互作用	6.5.6	D1:m		m : Yes[ ]
D6	SS - CFBとの相互作用	6.5.7	D2:m		m : Yes[ ]
D7	SS - CFNRとの相互作用	6.5.8	D3:m		m : Yes[ ]
D8	SS - CDとの相互作用	6.5.9	D4:m		m : Yes[ ]

A. 3. 7 ANF - PRとの相互作用

項目	質問 / 特徴	参照	位置づけ	N/A	サポート
E1	ANF - PRのサポート		o		Yes[ ] No[ ]
E2	ANF - PRとの相互作用	6.5.10	E1:m		m : Yes[ ]

A. 3. 8 ANF - CINTとの相互作用

#

項目	質問 / 特徴	参照	位置づけ	N/A	サポート
F1	ANF - CINTのサポート		o		Yes[ ] No[ ]
F2	ANF - CINTとの相互作用	6.5.15	F1:m		m : Yes[ ]

#

#

#



第1版 執筆作成協力者(1999年9月現在)  
(JS-15056 制定)

(敬称略)

第三部門委員会

部門委員長	飯島 裕雄	日本電気(株)			
副部門委員長	小澤 和幸	NTTコミュニケーションズ(株)			
副部門委員長	山岡 一仁	沖電気工業(株)			
	川内 晴雄	アイ・ティ・ティ(株)	蟻川 義男	東京電力(株)	
	山階 正樹	NTT移動通信網(株)	中村 寿博	日本情報通信コンサルティング(株)	
	森 文男	(株)エヌ・ティ・ティ・データ	古賀 得二	WG3-1委員長・富士通(株)	
	牟田 総男	岩崎通信機(株)	中山 文信	WG3-1副委員長・(株)東芝	
	勝川 保	住友電気工業(株)	森田 隆士	WG3-2委員長・(株)日立製作所	
	酒井 一郎	日本アイ・ビー・エム(株)	久保 輝幸	WG3-2副委員長・NTTコミュニケーションズ(株)	
	井坂 章	(株)リコー	小林 信之	WG3-2副委員長・三菱電機(株)	

第三部門委員会 第一専門委員会

専門委員長	古賀 得二	富士通(株)			
副専門委員長	中山 文信	(株)東芝			
	白井 敏弘	アイ・ティ・ティ(株)	小山 和彦	日本電気(株)	
	示野 隆	西日本電信電話(株)	山本 尚宏	日本無線(株)	
	松本 重典	(株)エヌ・ティ・ティ・データ	田中 一寿	(株)日立製作所	
	柳田 清	アンリツ(株)	和田 康雄	(株)日立テレコムテクノロジー	
	速水 均	岩崎通信機(株)	丸山 浩	富士通(株)	
	菊地 益己	沖電気工業(株)	佐藤 光伸	松下通信工業(株)	
	横川 英二	国際電気(株)	松山 浩司	三菱電機(株)	
	日比野 悟	三洋電機(株)	山本 祐治	明星電気(株)	
	林 弘章	シャープ(株)	本田 行雄	エヌ・ティ・ティ・ソフトウェア(株)	
	真野 広	(株)東芝	山田 甫	(株)デンソー	
	酒井 一郎	日本アイ・ビー・エム(株)	島岡 芳隆	東京電力(株)	
	沼田 幸喜	日本ルセントテクノロジー(株)			

[JS-15056 の制定 検討グループ]

リーダー	真野 広	(株)東芝			
サブリーダー	水口 学	日本電気(株)			
	渡辺 正晴	東日本電信電話(株)	川畑 哲	富士通(株)	
	伊賀崎 隆文	沖電気工業(株)	中西 均	松下通信工業(株)	
	福宮 誠道	(株)日立製作所	寺島 浩二	三菱電機(株)	
	森 清隆	(株)日立テレコムテクノロジー			

事務局： 元吉 茂 (第三技術部)